

目次

論考編

- 一 市町村要覧から見た相馬の概観……………佐藤政宏 一
相馬市・新地町・鹿島町・原町市・飯沼村・小高町・浪江町・双葉町・大熊町・葛尾村
- 二 市町村沿革（相馬市関係）……………松本敬信 一〇
- 三 相馬戊辰戦史……………戊辰殉難者七十年祭相馬偉人顕彰会 一五
近代相馬をひらいた先覚者志隆と富田真義……………岩崎敏夫 一四
- 五 興復社……………佐藤高俊 二二
- 六 相馬・双葉の自由民権運動……………高橋哲夫 二九
- 七 相馬市観光開発基本計画書……………今野源八郎 三八
鈴木忠義
酒井哲夫
中沢和周
- 八 相馬藩政確立の過程……………伊東多三郎 三〇

九 諸國巡見使と相馬藩	菅田 宏・壹二
一〇 相馬藩の郷土制度	長井 政太郎・五九
一一 相馬近世史	館岡 虎三・六一
一二 相馬充風事蹟	只野 清・四四
一三 古代浜通り文化の発掘	松田 亨・四九
一四 報徳生活の起源と様式	立谷 清治・四二
一五 磐城国新地村貝塚発掘記(明治二十三年)	若林 勝邦・四九
一六 磐城新地貝塚発掘報告(明治二十八年)	館岡 虎三・四九
一七 磐城国小川貝塚発見の骨角器	八幡 一郎・五三
一八 磐城国三貫地貝塚発見土器の繫属	山内 清男・五四
一九 真野古墳群調査概報	藤田 亮策・五九
二〇 金 銅 魚 佩 考	穴沢 啄光・五三
二一 福島県相馬郡大野村堅穴発掘調査概報	桜井 清彦・五七
二二 福島県双葉郡南上原古墳(昭和二十九年)	渡部 晴雄・五七
二三 同	伊東 信雄・五七
(昭和三十年)	渡部 晴雄・五七
清水 潤三	五七

二四 福島県双葉郡高塚古墳	渡部 晴雄・五八
二五 考古学者渡部晴雄先生その御研究と学風	梅宮 茂・六二
二六 相馬地方出土石彫丁考	加藤 孝・六二
二七 相馬地方の考古学主要論文の概要	竹島 国基・六七
二八 相馬高校郷土室による相馬地方遺跡調査報告	西 徹雄・六六
二九 磐城国相馬郡福浦村大字泉沢の磨崖仏について	寺島 文隆・四三
三〇 相馬系図成立に関する一考察	橋本 博幸
三一 相馬氏奥州移住の年代に関する一考察	小此木 忠七郎・六二
三二 野馬追の旗について	岡田 清一・六三
三三 阿武隈高原東部の地形学的考察と人文	千枝 章一・六七
三四 中村附近の地形地質及び地下水	佐藤 清七・七四
三五 相馬の気候と風土	杉 日 妙光・七九
三六 相馬の地理	同 七九
	草野 清一・七九
	田代 弘伯・七九

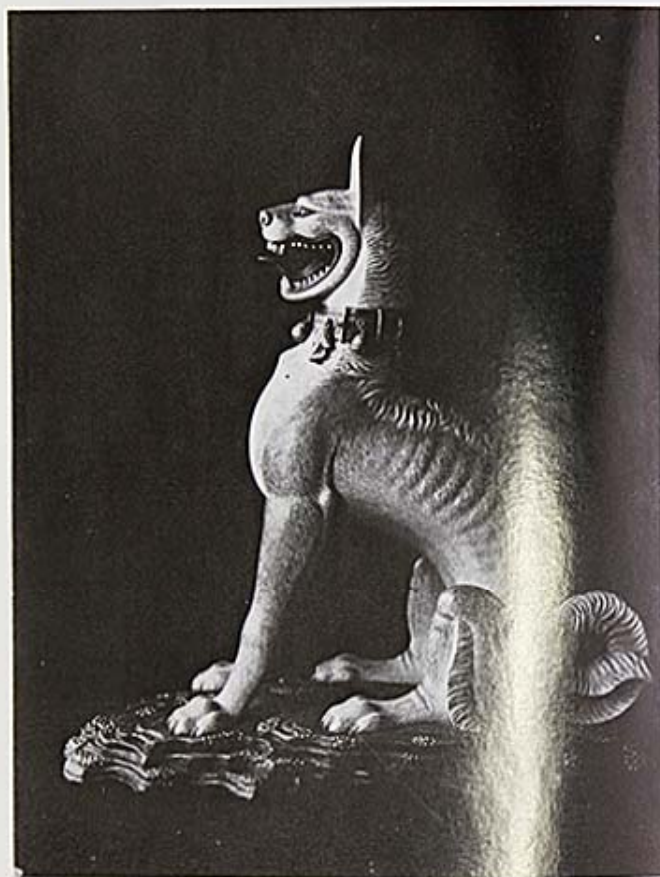
三七	相馬市付近の地質……………	堀内俊秀・大
	付、松川浦の研究(紹介)	
三八	『わが植物観』の中から……………	草野俊助・七
	付、草野俊助先生のこと……………	岩崎敏夫
三九	相馬の動植物……………	林大雄・六

以下下巻

四〇	学校教育……………	佐藤慶一
	付、相馬市体育史年表……………	同
四一	社会教育……………	松本敬信
四二	相馬藩の土地制度……………	鈴木啓
四三	近世後期東北地方における鉄取引について……………	岩本由輝
四四	相馬地方の耕地整理について……………	同
四五	福島県相馬郡大野村是について……………	同
四六	相馬地方の民家……………	草野和夫

四七	佐藤玄々の人と術……………	松田亨
	付、佐藤玄々先生年譜……………	同
四八	郷土の生んだ芸術家遠藤新……………	福原正
四九	荒室重と相馬の和算……………	氏家義之
五〇	相馬の美術界の現況……………	阿部七郎
五一	相馬を訪れた近世の文人たち……………	鈴木一
五二	二宮文子(二宮尊徳女・富田高慶妻)……………	佐藤高俊
五三	吉田巖先生(アイヌ研究家)の生涯……………	小林正雄
五四	福島県下の吉田神道……………	岡田米夫
五五	相馬藩における念信信仰の発展……………	持館泰
五六	真宗移民の相馬におよぼせる影響……………	岩崎敏夫
五七	相馬のキリスト教……………	古山金作
五八	警察(相馬警察署・ほか)……………	松本敬信
五九	消防(相馬市関係)……………	同

佐藤玄々作品



神 狗 (相馬佐須山紙神社にて製作)

六〇	保健衛生(同)	同
六一	福祉と保健(同)	同
六二	開 発	松本敬信
六三	観 光	同
六四	相馬を育んだ人びと	市史編集部